

## 地区大会を顧みて・2

### 最少の経費で最大の効果

第349地区 1975年5月10～11日



佐原 寺田 欣一

4月号で「地区大会を顧みて・1」を掲載しましたが、今月は引続き、本年に入って行なわれた5地区大会の委員長に「(1)大会の意図に照しどのような成果をあげたか。(2)今後の地区大会に参考になる提案」につき回答して頂きました。

簡素の中で、いかに充実した温かい雰囲気を持ち上げるかに苦心を払われたようです。また地域社会へのPR、国際色の導入なども留意したようであります。

第349地区大会は佐原クラブがホストとなり、野口長太郎ガバナーの提唱による“心を磨こう”というテーマの下に“最少の経費で最大の効果を”あげるべく努力いたしました。その甲斐あって地区内会員の約65パーセントに当る1,522名の多くの参加者を得て無事に終了することが出来ました。デルガードRI会長代理からは簡素にして充実したスケジュールによる実り多い大会であった。これこそロータリー本来の姿でなければならない。会長代理として経験した26回の大会の中でも最高と思う。と最大級の賛辞をいただき、参加者からも同様の大変満足したとの言葉をいただいた。そして、今まで、これだけの少ない予算で行なわれた大会は他にないのではないかと自負している。

さて、今後の大会開催について参考となる点を私が感じたままに述べるならば、次の二つがあげられる。

(1)責任者は朝令暮改的な提案や思いつきだけの指示は、なるべく避けていただき、大綱だけを指示するようにし、他は準備に当る者に、全てをまかせるという気持ちが必要だと感じました。

(2)出欠席者の数をつかむのに大変苦勞しましたので、会員においては登録申込(仮登録を含む)の期限を厳守することが参加者の大会に対する最大の協力になるのではないかと、思いました。(千葉県)

(大会幹事)



地域社会へのPRも考慮

第352地区 1975年4月12～13日



仙台南 栗原 操

大会の目的である感激と親交を充分はたし得たと思っております。いかにして多くの思い出を提供することができるか、いかにして多数の方々との親交を深めることができるか、この点に大会の目的を絞って簡素にして充実したスケジュールを組んで、寸分のくるいもなく進行し得たと思っております。

大会はお祭であってはならぬと思っております。大会の意図は社会に対して「ロータリーとは何か」を知って頂くことも目的の一つでありますから、そうした点も充分考慮してこの大会を催したつもりです。しかし第1日目は午前午後を通し全員が参加し、真剣に討議し充実した1日でしたが、2日目は委員会の報告、表彰等で歯の抜けたように欠席された方が多く、どこの大会でもこのくらいはあるので、これでよいのか、またスケジュールの組方等も、今後研究する必要があると同時に、反省しなければならない点だと思えます。(宮城県)

国際色豊かな大会に

第359地区 1975年3月1～2日



鎌倉 栞岡 智

地区大会はその地区最大の行事であります。その要点は理想的には、全世界のロータリアンが一堂に会して、1年1度の

機会に友情を深め、世界平和に徹する協議や、その他ロータリー精神発揮の具体的問題の討議、等々を、打ち解けて話し合う唯一の機会であることはご存じの通りであります。

しかしながら地区ガバナーの意向により、各地一様に実施することはできないこともあると思われれます。

わが第359地区においては、山田ガバナー主意の下に、可成り盛沢山のスケジュールを計画いたしました。その中でも国際シンポジウムの企画については、不安もありましたが、幸にしてローマ、アテネ、台湾、韓国の4カ国の参加の報を受けて曙光を見ましたが実施に当っては、安野、入江パストガバナー、上野Gノミニエのご指導の下に数回の打合わせの上、前日に4カ国の代表と関係役員を混えてリハーサルをやったことが成功をもたらした要因と思えます。

鎌倉、茅ヶ崎の交友クラブである彰化と仁川より十数名の参加者があったことで国際色豊かな大会となりました。

南は鹿児島、北は北海道に至る地区よりの参加者を含め、実に1,968名が参加され、旧交を温めたこと、企画についても大会の運営についても、曲りなりにも皆さんに喜んで頂けたことは、意義ある地区大会であったと思ひ感謝に堪えませぬ。

経費についても、予算の範囲内で処理できたことも成功であったと思えます。

なお地域社会奉仕の一部として鎌倉市に金壺封を贈りましたところ、市当局では、これで救急患者輸送車を発注し、1974～75年度、国際ロータリー第359地区年次大会記念号として近く完成することです。(神奈川県)

10の部門別協議会で論議

第366地区 1975年5月9～10日



橋本 田中 常楠

真言宗のメッカ、聖地高野山にて大会を開きました。

安野謙次RI会長代理は“(1)交通ゼネストの最悪の時に1,660名余が集まったことは成果であった。(2)10の部門別協議会がおざなりでなく、かなりつっこんだ討論がなされた。(3)大阪、和歌山で地区を構成してから初の泊りがけの大会で、地区内会員の親睦を深めた。(4)タレントの余興や、晩さん会をやめ気の合った親睦を深めたことは今後の大会の行き方を示すものであった。”と講評されましたが交通ゼネストの真只中にこれだけお集まり頂いた熱意を有難いと思えます。

今後の大会のためには

(1)春闘時期を避けること。イライラし通してした。

(2)登録申込者の締切日以後の取消しは慎んで頂きたい。いろんな面で迷惑をこうむりました。

(3)大会事務局からのお願ひには締切日までに必ず回答してほしい。物故者の回答など締切日を過ぎてポツンと報告されたのでは、印刷にも間に合いません。テキパキ回答して頂けたら準備がどんなにスムーズにいったでしょう。

(4)交通ストなので、大阪からの貸切バスを用意しました。250名の申込みで7台用意したところ、70名の利用者でした。大変なムダです。登録もそうですが、一旦申込んだらクラブでその数は責任をもてないものではないでしょうか。(和歌山県)

なごやかで温かい雰囲気

第369地区 1975年4月5～6日



徳山 中津井精一

(1) 当地区の大会シンボルマークを心とし、テーマを“美しい豊かな心を求めて”と定めて、ホストクラブ、コホストクラブ会員は、このテーマをいかに実現するか日夜努力を重ね、「まとまりと和の力」で大会を迎えることができたことが、非常に意義ある大会であったと思えます。このように一つの“テーマ”を中心に事前準備をした結果、参加頂くロータリアンを、温かく迎えるということに成功したと確信いたします。

さらに参加ロータリアンは、簡素で平凡な中にも、なごやかで温かい雰囲気と味のあるプログラムを感じられたのではないのでしょうか。一応所期の目的を達した大会だったと思えます。しかし、若干の反省もあります。それは、各々が体験したことをさらに精進することが大切であり、これを契機としてそれをつかんだことが、何よりも大きな収穫であったといえます。

(2) 近年の大会は、派手になる傾向がある中で、ロータリーの本質を考え、みのある方向が必要であることを反省したい。しかし、大会々場の設備、特に収容能力との関係により、大会運営に相当左右されることも見逃せない。(山口県)

(徳山・大会委員長が急病のため参加できませんでしたので大会副委員長が代って報告します)